

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

【2017年3月4日～2017年3月10日の推移】

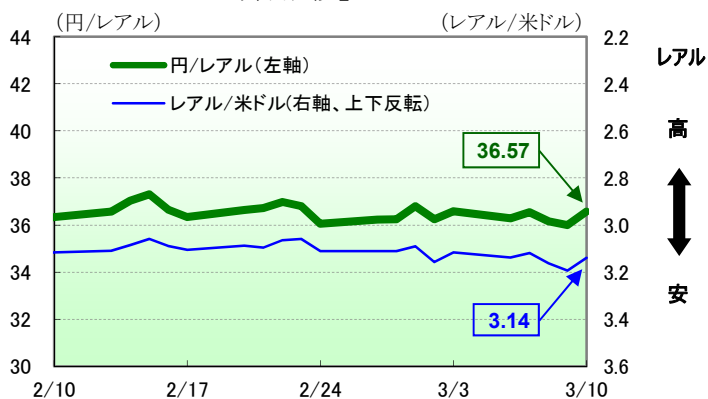
【1】先週の回顧

先週は、レアルは対ドルで下落し、対円では小幅に下落しました。債券は短期の年限の金利が低下しました。

発表されたインフレ率が市場予想よりも下振れたことで、次回のCopom(金融政策委員会)において利下げ幅が拡大されると予想する見方が強まりました。これを受け短期の金利は低下しました。

また、原油価格が大きく下落したことで、資源国通貨であるレアルを売る動きが見られました。海外要因では、米国の雇用関連の経済指標が堅調な結果となったことから、今週のFOMC(米国連邦公開市場委員会)での利上げが確実視されたことで、ドル高(レアル安・円安)となりました。

【ブラジル・レアル 為替推移】(2017年2月10日～2017年3月10日)



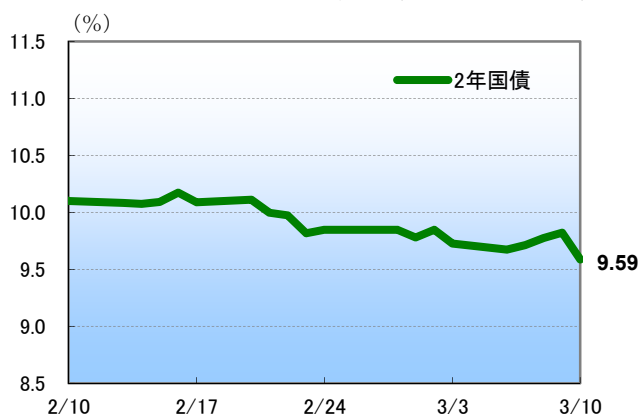
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【2】今週の見通し

足元では、建設会社幹部の司法取引による供述で政界が動揺しています。市場参加者の間では、数日内に政治家へ何らかの捜査が入るとの見方もあり、政治家の中にはテメル政権の官僚も含まれているとみられることから、テメル政権の目指す社会保障改革に影響が出るのではないかと懸念が強まっています。

引き続き、財政再建の動向が注目されていますが、公的年金支給年齢の引き上げなどの緊縮策には労働組合をはじめ各方面から反発が予想されます。テメル政権が財政健全化を着々と進める場合には、海外投資家の信認改善に寄与するとみられるため、ブラジルへの投資活発化を通じてレアルが下支えされることが期待されます。リスク要因としては、継続的な汚職捜査による国内政治リスク、グローバル市場全体におけるリスク回避姿勢の強まりとそれに伴う投資資金の流出などが挙げられます。

【ブラジル 金利推移】 (2017年2月10日～2017年3月10日)



【3】主要経済指標

発表日	発表頻度	期間	指標名	データ	(参考) 前回
3/6	毎月	2017年2月	ブラジル購買担当者総合指数 (PMI)	46.6	44.7
3/7	四半期	2016年10-12月期	GDP(前年同期比)	-2.5%	-2.9%
3/8	毎月	2017年1月	鉱工業生産(前年同月比)	1.4%	-0.1%
3/10	毎月	2017年2月	インフレ率(前年同月比)	4.76%	5.35%

(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
 - 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
 - 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
 - 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>